

1 風の人(来訪者)が見た「竜串」(来訪者アンケート調査結果)

竜串を見つめる2つの目

「竜串」での自然再生、地域再生の活動には多様な主体の参画と連携が求められています。

近年、地域づくり活動などにおいては、そこに住んでいる人々を「土の人」と呼び、外から訪れる人を「風の人」と呼んでいます。



土の人は地域づくり活動の主役となって、主体的に活動に関わっていくわけなのですが、その地域にずっと生活しているがゆえに、地域の独自性（オリジナリティ）や良さ（地域資源）を日常生活のなかで当たり前と思い込んで、気がつかないこともあります。

そんな時、地域を訪れる旅人＝風の人方がそのことを教え、土の人の気づきのきっかけを与えることがしばしばあります。また、風の人は地域に新たな情報や刺激をもたらしてくれたりもします。

つまり、自然再生が求める「多様な主体の参画と連携」には、土の人と風の人とが協働することも大切なことといえるでしょう。

そこで、「竜串」で自然再生を進めるために、地域社会調査では、まず両者の「竜串」への想いを抽出することからはじめることにしました。

土佐清水市には、年間70万人を超す観光客が訪れています。なかでも、竜串は土佐清水市において足摺岬とならぶ有名な観光地です。

そこで、「竜串」における自然再生事業では、この地域外から訪れる人々（観光客）＝風の人も再生の重要な主体と考えています。

風の人は「竜串」の自然（サンゴ）再生をどのように見ているのでしょうか。

そこで、風の人（来訪者）の意識を把握するため、アンケート調査を実施しました。

本アンケートでは、おもに土佐清水市竜串地区および幡多地域への来訪者を対象にし、竜串を訪れたおもな目的や竜串の魅力、やってみたい（楽しかった）自然体験活動などを聞く質問を設けました。

【アンケートの概要】

- 調査の目的：審査地区の印象や利害感としてのニーズなどを把握する。
- 調査の対象：土佐清水市および幡多地域への来訪者
- 調査の方法：観光施設および宿泊施設等への面接法（一部座談会）
- 調査の期間：2004（平成16）年8月31日～10月31日
- 回収数：772部



風の人の声を聞く (来訪者アンケート調査結果)



来訪者アンケート調査結果

(1)回答者属性

アンケート回答者の属性を表1(1)・(2)に示します。

表1(1) 回答者属性(年齢・性別)

	年代								計
	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答	
男性	7 (2.2%)	45 (14.1%)	61 (19.1%)	35 (10.9%)	68 (21.3%)	78 (24.4%)	25 (7.8%)	1 (0.3%)	320 (100.0%)
女性	18 (4.1%)	87 (19.9%)	103 (23.6%)	68 (15.6%)	74 (16.9%)	69 (15.8%)	16 (3.7%)	2 (0.5%)	437 (100.0%)
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	13 (86.7%)	15 (100.0%)
計	25 (3.2%)	132 (17.1%)	165 (21.4%)	103 (13.3%)	142 (18.4%)	147 (19.0%)	42 (5.4%)	16 (2.1%)	772 (100.0%)

表1(2) 回答者属性(居住地)

土佐清水市内	43 (5.6%)
高知県内	206 (26.7%)
県外	509 (65.9%)
無回答	14 (1.8%)
計	772 (100.0%)

注)四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。



アンケート留置き状況
(足摺海洋館)

(2)今回の来訪地およびこれまでに行ったことのある場所

幡多地域内における今回の来訪地とこれまでに行ったことのある場所について聞きました(図1)。

今回の来訪地としては、「足摺岬灯台」が64.9%と最も高く、次いで「四万十川」53.6%、「竜串海岸」53.1%の順でした。

また、これまでに行ったことのある場所として高い割合を示したのは、今回の来訪地と同じであり、それぞれ68.8%、67.5%、64.4%でした。

幡多地域の観光地としては、この3カ所を訪れる割合が高いものといえましょう。

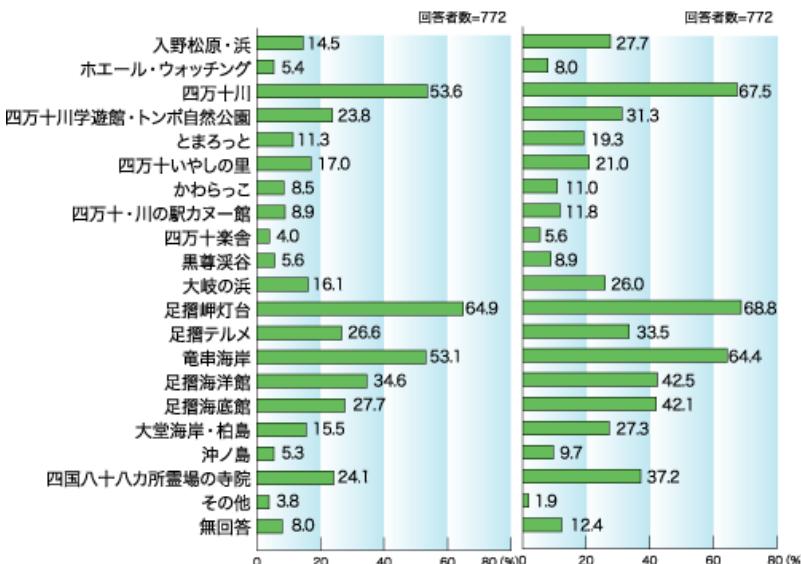


図1 今回の来訪地(左)およびこれまでに行ったことのある場所(右)
(複数回答)



足摺岬



四万十川

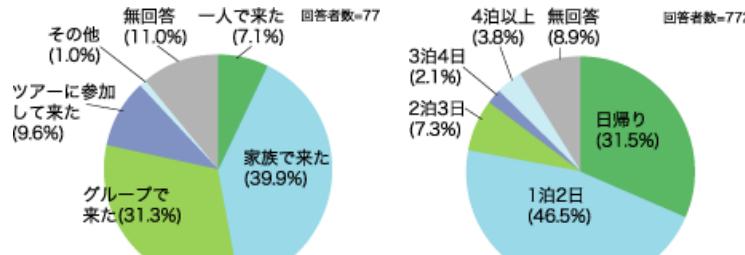


竜串海岸

(3) 今回来訪の形態および幡多地域内での滞在期間

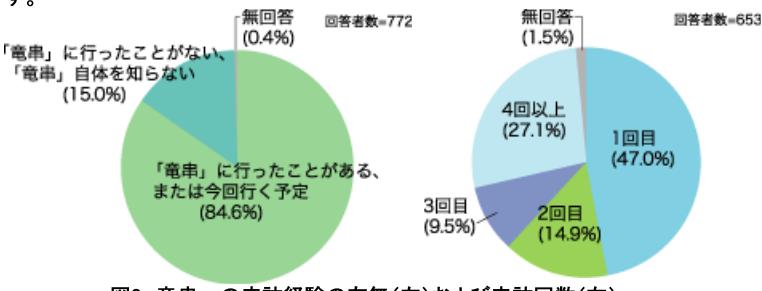
今回の来訪の形態と幡多地域内での滞在期間について聞いてみました(図2)。来訪の形態としては、「家族で來た」が39.9%と最も高く、次いで「グループで來た」が31.3%でした。

また、幡多地域内での滞在期間は、「1泊2日」が46.5%と高く、次いで「日帰り」が31.5%でした。両者をあわせると、約8割の人が1泊以下であり、幡多地域に滞在する期間はさほど長くないものといえます。



(4) 竜串への来訪経験の有無および来訪回数

竜串への来訪経験の有無および来訪回数については(図3)、「竜串に行ったことがある、または今回行く予定」と回答した人は84.6%を占めていました。また、来訪回数は、初めて竜串を訪れるという人が47.0%と半数近くを占めていました。その一方で、「4回以上」来訪している人も27.1%と比較的高く、リピーター層も定着していることがうかがえます。

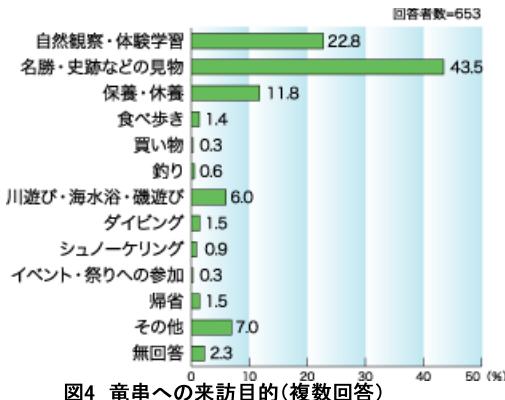


(5) 竜串を訪れたおもな目的

竜串を訪れた目的は(図4)、「名勝・史跡などの見物」が最も高く43.5%でした。次いで「自然観察・体験学習」が22.8%となっています。この2つの項目以外のものは分散しており、来訪目的としては竜串の自然を中心とした見学や体験活動などが中心になっているものといえます。



見残しの化石漣痕
県の天然記念物に指定されている
名勝地である



(6)竜串の魅力

竜串の魅力について聞いたところ(図5)、「奇岩や変化のある地形が面白いこと」が圧倒的に高く、75.7%の人がこの項目を挙げました。次いで「海の透明度が高いこと」(46.1%)、「サンゴ群が美しいこと」(38.4%)と続いています。この結果から、やはり竜串の魅力は海を中心とした地域資源にあることがわかります。



(7)やってみたい(楽しかった)自然体験活動

竜串でやってみたい、あるいは楽しかった自然体験活動については(図6)、来訪経験者・未経験者ともに「グラスボート(船でサンゴ群を観る)」が最も高く、ともに40%超えました。

やってみたい(楽しかった)自然体験活動については、以下、来訪の経験を問わず「海岸沿いの遊歩道の散策」、「自然鑑賞施設(博物館・水族館・海中展望塔など)の見学」が高く30%を超えています。

このように、来訪経験者と未経験者の間にやってみたい(楽しかった)自然体験活動に大きな違いは認められませんが、そのなかで、グラスボートは未経験者に比べて来訪経験者の方が7.4ポイント、また、「かつおのタタキづくり体験」は同様に4.3ポイント高く、期待以上の体験活動になっていることがこの結果からうかがえます。

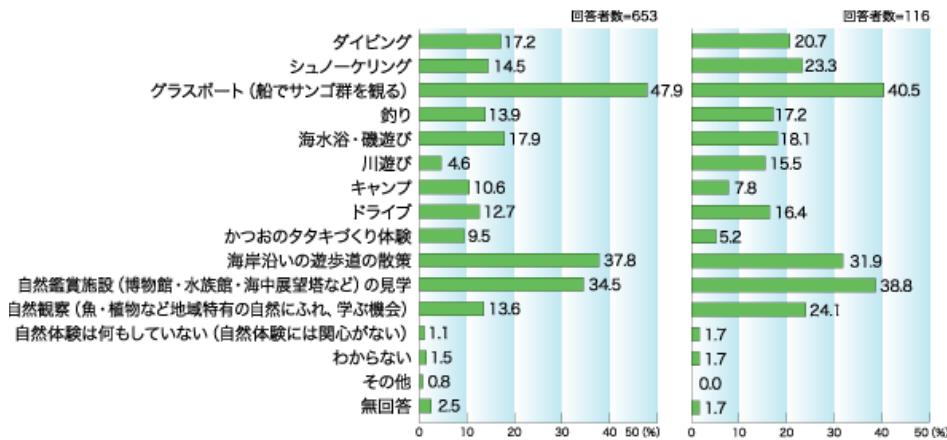


図6 やってみたい(楽しかった)活動(左・来訪経験者／右・来訪未経験者)
(複数回答)

(8)竜串の「良かったところ」および「悪かったところ」

竜串に対する来訪者の率直な意見を抽出する目的で、具体的に「良かったところ」と「悪かったところ」を聞いてみました(図7)。



図7 竜串の「良かったところ」(左)および「悪かったところ」(右)(複数回答)

良かったところとしては、「奇岩や変化のある地形」が最も高く、74.1%の人がこの項目を選択しました。次いで「海(透明度や魚の種類)」(53.4%)、「サンゴ群」(33.8%)と続いています。この結果は、(6)竜串の魅力と同様となっています。また、「観光・見学施設」(20.8%)、「地元の人との会話・交流」(17.8%)、「食べ物」(17.2%)といった項目も比較的高く、海を中心とした資源に加えて、関連する食べ物や地域の人たちとの交流に、来訪者は好印象を持っていることがうかがえます。

一方、竜串の悪かったところについては、「交通の便」が26.6%と最も高く、観光地としての地理的な悪条件をそのまま表した結果となりました。ただし、この設問に対しては、「無回答」が圧倒的に高く(53.1%)、来訪者は、竜串において悪いと感じることはそれほどなかったともいえましょう。その上で「観光・見学施設」、「食事・宿泊施設」がそれぞれ10%を超えていたことに関しては、その内容を踏まえ、地域の今後の課題として、それぞれに該当する主体に検討や対策を促していく必要があります。



奇岩や変化のある地形(竜串海岸)



サンゴ群(ミドリイシ科)

(9)今後竜串の利用をより良いものとするために必要な取り組み

今後竜串の利用をより良いものとするために必要な取り組みについて聞いてみると(図8)、「サンゴ群や竜串の自然景観など、地域固有の資源を維持管理する活動」が圧倒的に高く、61.7%でした。この結果から、竜串においてはその資源としての自然を守り活かすことが重要であると考えられていることがわかります。

それ以外の取り組みとしては、「わかりやすいパンフレット・広報誌、ホームページなどの作成」(28.2%)、「観光・見学施設の改善や整備(トイレ・駐車場、キャンプ場の炊事場など)」(26.5%)が比較的高い結果を示しています。このことから、広報・宣伝活動の重要性および観光地としての基本的なハード整備が求められていることがうかがえます。

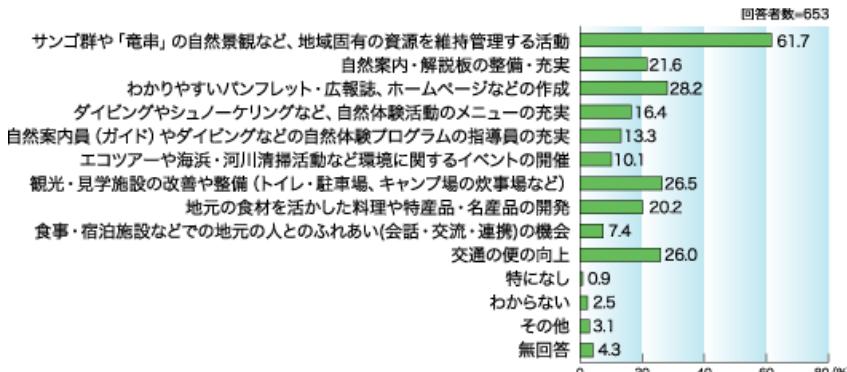


図8 今後竜串に必要な取り組み（複数回答）

(10) 竜串のサンゴ群が劣化・減少していることの認知度

竜串のサンゴ群が劣化・減少していることを知っていたかどうかを聞いてみました（図9）。

「知っている」と答えた人は、竜串への来訪経験者が41.5%、未経験者が12.9%で全体の認知度は37.2%でした。一方、「知らなかった」と答えた人は、来訪経験者が56.7%、未経験者が38.8%で、全体で知らないと回答した人は54.0%でした。

特筆すべき点としては、来訪未経験者においては「竜串自体を知らない」と回答した人が48.3%を占め、約半数が竜串の存在を知らないという結果となりました。



衰退したサンゴ

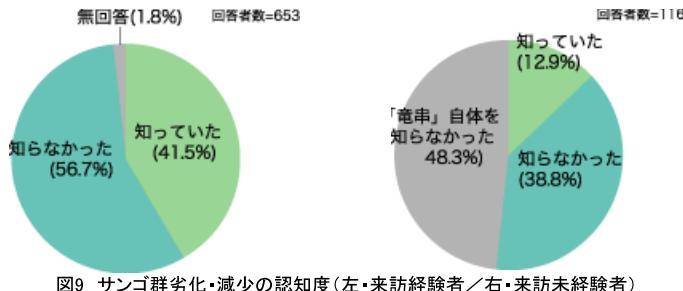


図9 サンゴ群劣化・減少の認知度（左・来訪経験者／右・来訪未経験者）

(11) サンゴ群の劣化・減少の事実を知り得た手段

サンゴ群の劣化・減少を知っていた人に対して、その事実を知り得た手段についてたずねました（図10）。

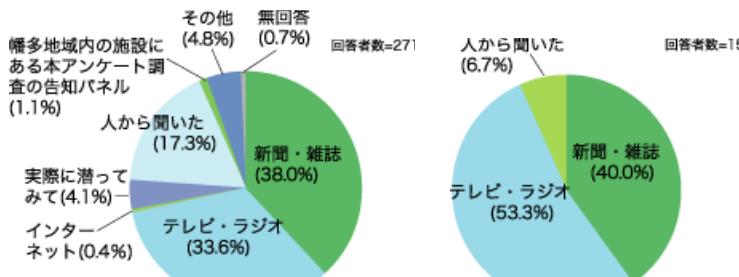


図10 サンゴ群劣化・減少の事実を知り得た手段（左・来訪経験者／右・来訪未経験者）

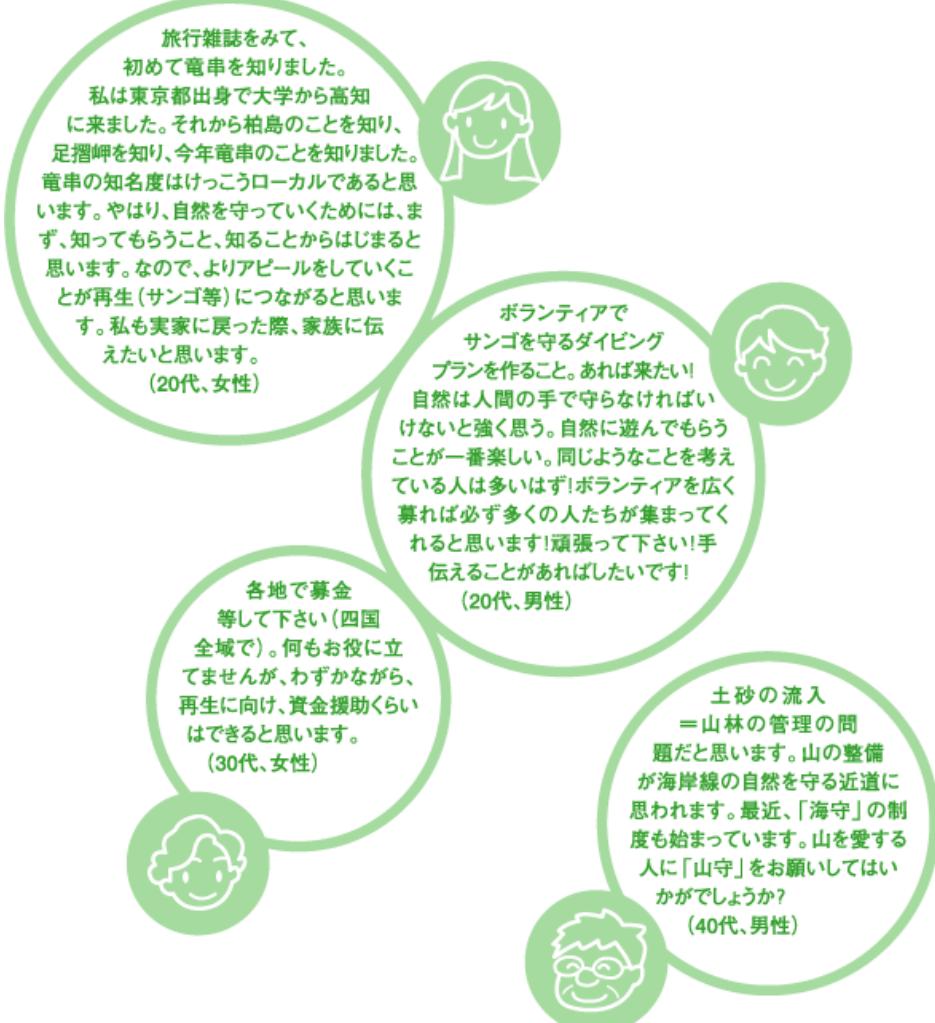
その結果は、来訪経験者・未経験者をあわせて、全体として知り得た手段は「新聞・雑誌」が最も高く、38.1%を占めていました。次いで「テレビ・ラジオ」が34.6%でした。この結果は、竜串のみならず、例えば沖縄でのサンゴ再生活動など、全国規模の環境問題の1つとしてサンゴ群の減少・劣化が報じられていることによると考えられます。

(12) 竜串にあったら良いと思う自然体験活動やそのアイデア（自由回答）

竜串にあったら良いと思う自然体験活動やそのアイデアとしては、シュノーケリング体験やエコツアーの充実、自然をガイドするボランティアの育成、地域外からの修学旅行の誘致などが挙がっていました。

(13) サンゴ再生に関する自由回答

サンゴ再生に関する自由回答として、来訪者からは以下のような声が聞かれました。



自由回答で出された意見を全体的に見てみると、以下の3つの意見にまとめられます。

- ・周辺の森一川一海のつながりに目を向け、森林管理が急務と指摘する意見。
- ・竜串の知名度を挙げることと並行してサンゴ再生を訴える必要があるという意見。
- ・活動への参画の具体的手法に関する意見（ボランティアダイバー制度を設けてはどうか という意見や募金を募るといった提案など）。

これら皆様からいただいた意見は、今度の竜串自然再生計画の作成において役立てていきたいと思います。